

J. Sugawara

銅板
珍板
日光名所圖會

中澤祚能編

下

特別

ル 3

3617

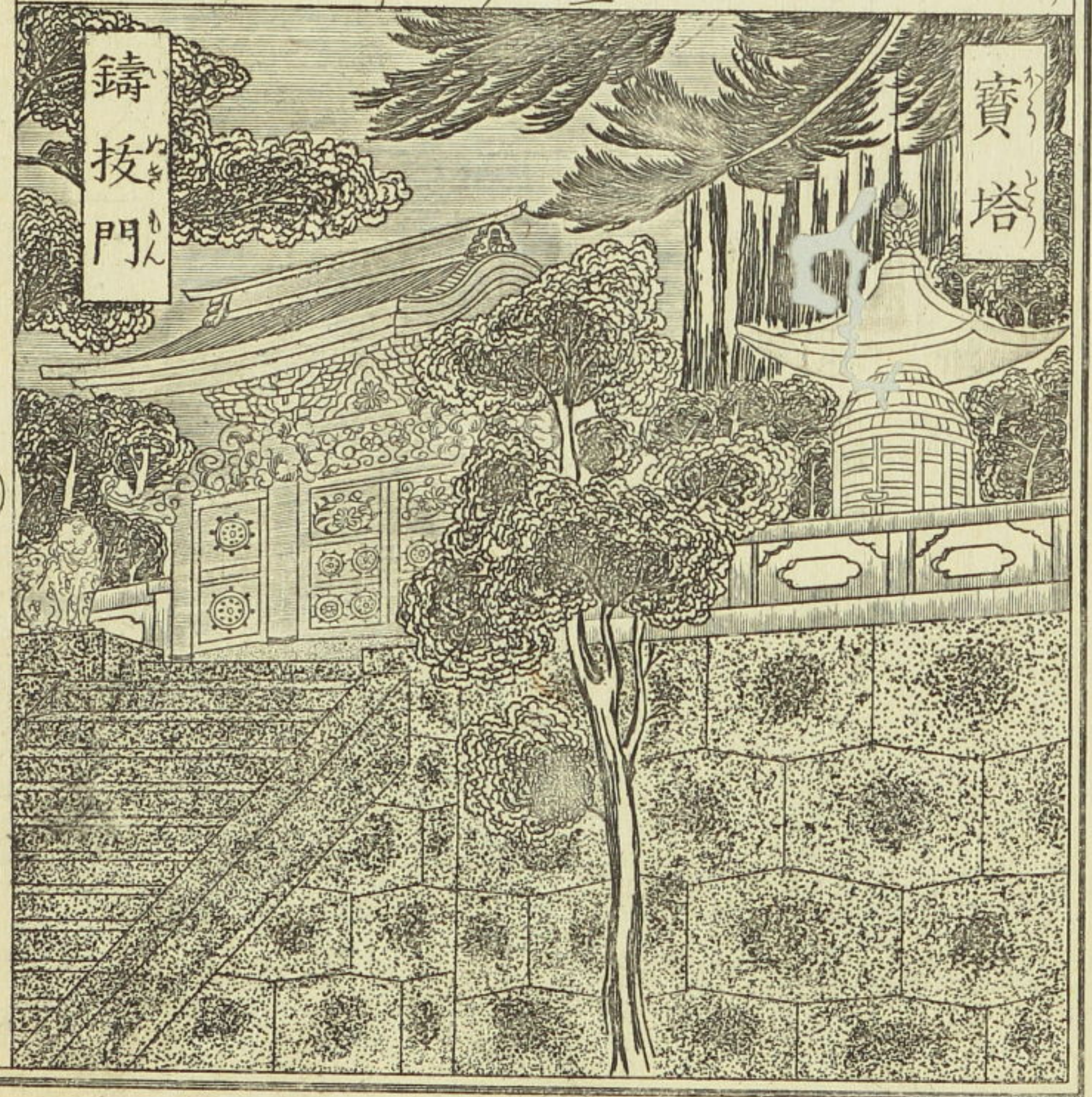
87(2)

10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7

奥院

本社の後山上

入り口門俗のふ
 御門とツ門猫の肥
 御門の肥
 田の甚五郎とひり
 の彫物あり
 て石階百間餘を登のり
 り右ふい抜門あり
 總唐銅づくりみ
 て門内ふ唐銅の塔
 一基と安ど是を奥
 院の寶塔とツ入



3

二荒山神社 仁王

門と出で、西北

へ二町余前ふ鳥

居り此邊と新

宮馬場と唱ふ本

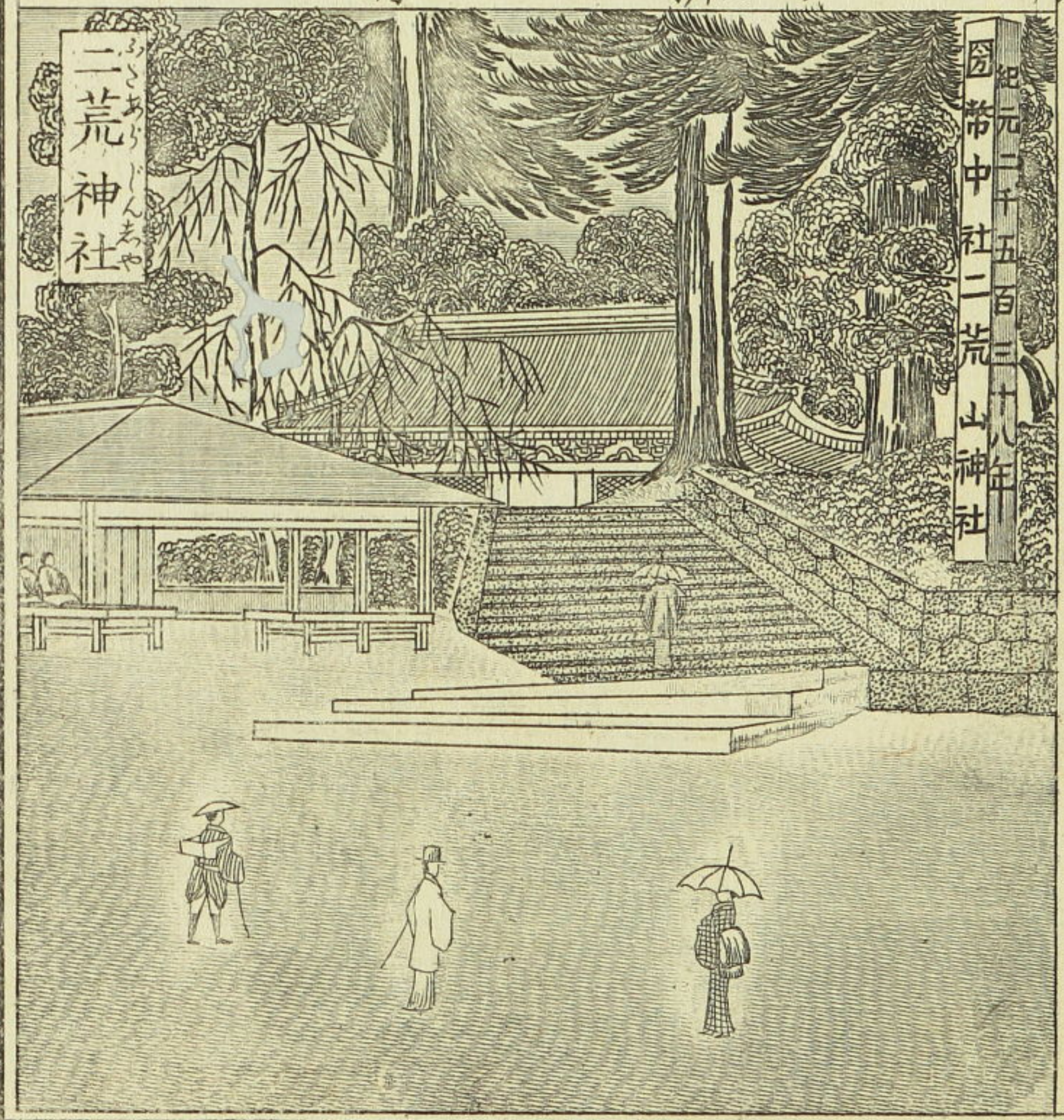
社ハ銅菅赤塗ふ

して五間四方前

一拜殿あり造工

本社小同旧時

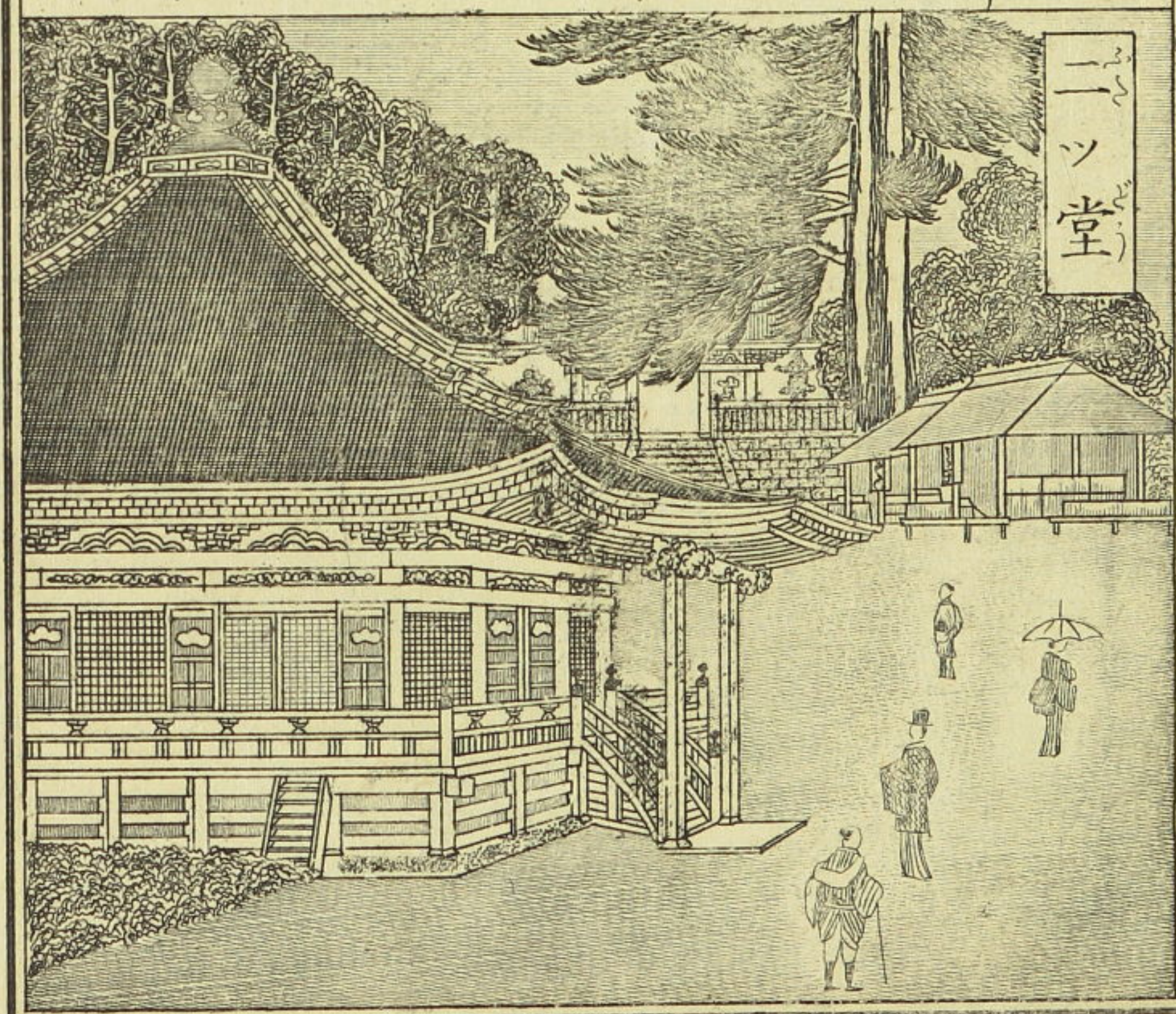
是と新宮とい



ひ日光三社の一ふして大己貴神を祭せり前ふ唐銅の
 大燈籠あり鹿沼權三郎の納むる處とい抑二荒神社を
 祭神大己尊命味耜高彥根命田心姫命の三神ふして神
 名帳小二荒山神社大名神とあり其他續日本後記文徳實
 録三代實錄等ふ勲位贈進の事ありて往古よりの神蹟
 照々たり今ハ國幣中社ふ列せられ下野の一宮と稱す
 ○後山ふ慈惠大師堂あり

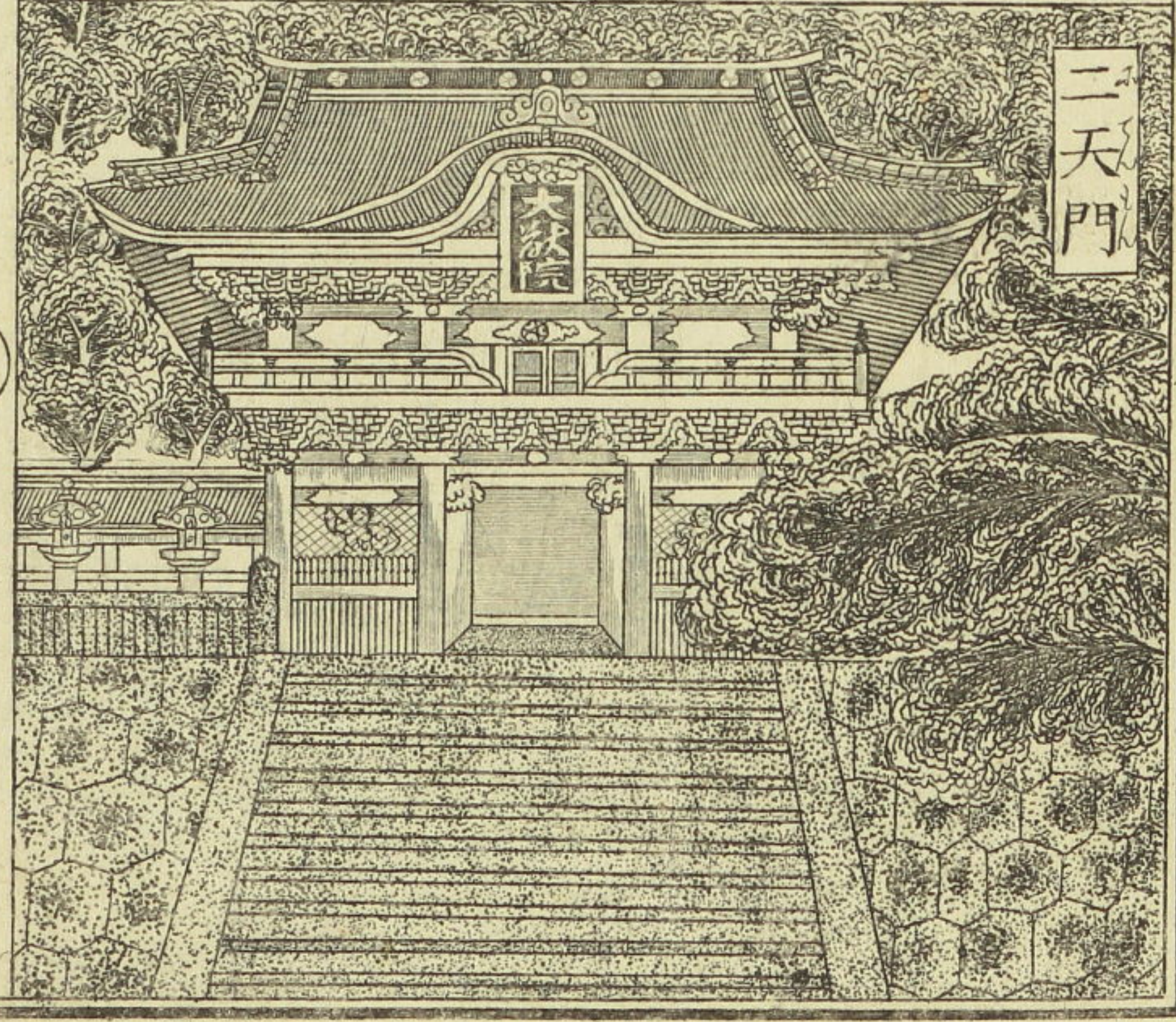
常行堂法華堂 俗ふニツ堂といふ新宮の向ふふ並ぶ此
 處より正面ふ大猷廟の仁王門見ゆ常行堂ハ十間ふ
 五間銅菅二重垂木赤塗彫物極彩色堂内ふ彌陀四菩薩

と安置を○法華堂と五
 間入四間造構前ふ同ト
 内ふ普賢鬼子母神等と
 安ず○常行堂ハ嘉祥年
 中慈覺大師叔建一其後
 源頼朝燈油料と寄附せ
 一より俗ふ頼朝堂と云
 慈眼堂 右兩堂の間と山
 上へ登り一處ふあり慈
 眼大師の庵あり大師ち



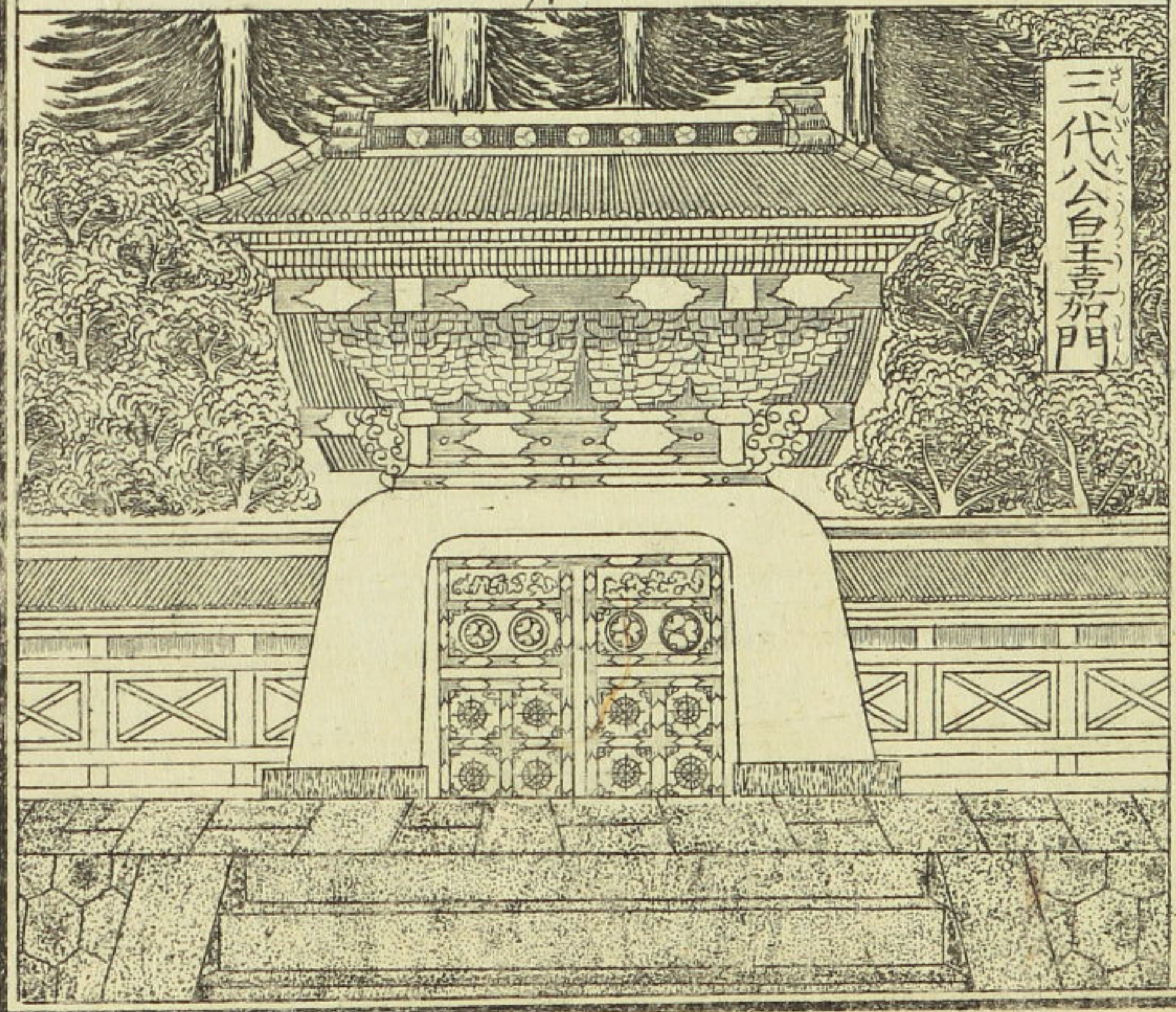
ニツ堂

三浦氏の入後小天海僧
 正とツ入此邊と大黒山
 とツ門と入る文珠
 堂經藏鐘樓拜殿等あり
 何まも構造美麗あり奥
 小御影石ふて高さ九尺
 許の塔あり大師の遺骨
 と納むる所ありとツ入
 大猷廟 二ツ堂より北の
 正面ふ仁王門あり次ふ



二天門

二天門次二天門次夜叉門次夜叉門次
 唐門唐門夫夫りり拜殿拜殿本堂本堂を
 りいりいつれつれも華麗華麗壯觀壯觀東
 照宮照宮小小劣劣らば彫琢彫琢の緻
 善美善美と極極め結構結構いいちん
 方方ありあり其他其他諸堂諸堂より屏
 玉垣玉垣水屋水屋等等小小至至るままで
 金碧金碧を鏤鏤め五彩五彩を粧粧ひ
 上の燈臺燈臺旧旧諸侯諸侯進獻進獻の
 燈籠燈籠等等最最も多多し奥院奥院入

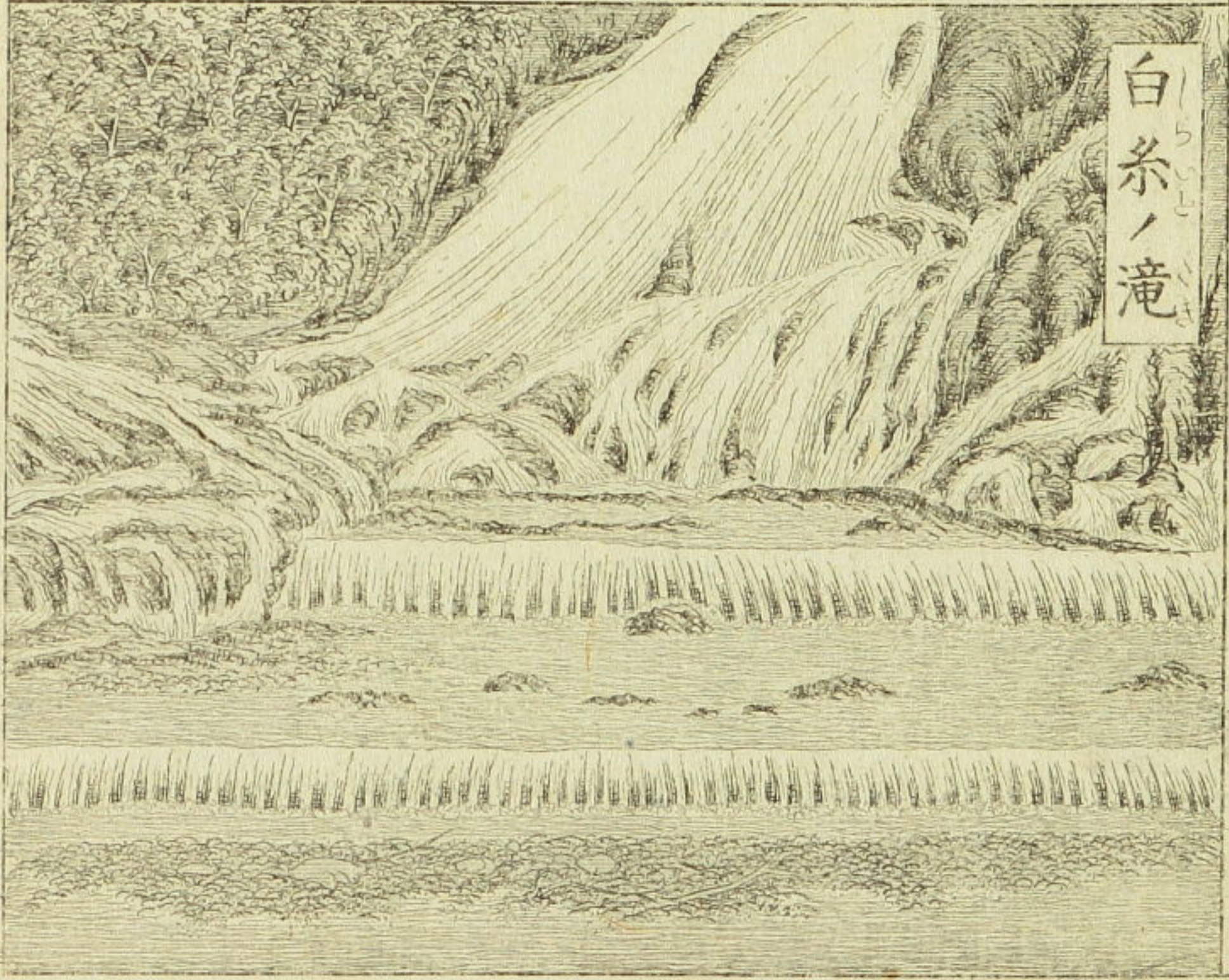


口と皇嘉門皇嘉門ととつつみみ○大猷大猷公公と徳川徳川第三第三代代の將軍將軍入入
 て東照公東照公の孫秀忠公孫秀忠公の第二第二子子あり聰明聰明豁達豁達勇斷勇斷入入
 て大小大小治績治績有り有り従一位従一位左大臣左大臣小任小任慶安慶安四年四年四月四月廿
 日薨薨正一位正一位大相國大相國大猷院大猷院を贈贈らら○大猷廟大猷廟と新宮新宮
 の間間と北北へ滝滝の尾道尾道あり

以下以下路順路順悉悉く明明ららりり提出提出ささるる所所少少ききややりりあれ
 とも本文本文と通讀通讀すれば全山全山の事蹟事蹟悉悉く詳詳あり提頂提頂
 の少少ききと紙葉紙葉をつめつめるる多多め尤尤も東照宮東照宮の處處を精
 と極極むむこと他他小過小過ぎぎ多多るる自然自然の勢勢ひひあり

藥師堂藥師堂二荒社二荒社より滝滝の尾尾へ行行く路傍路傍よりあり○阪阪

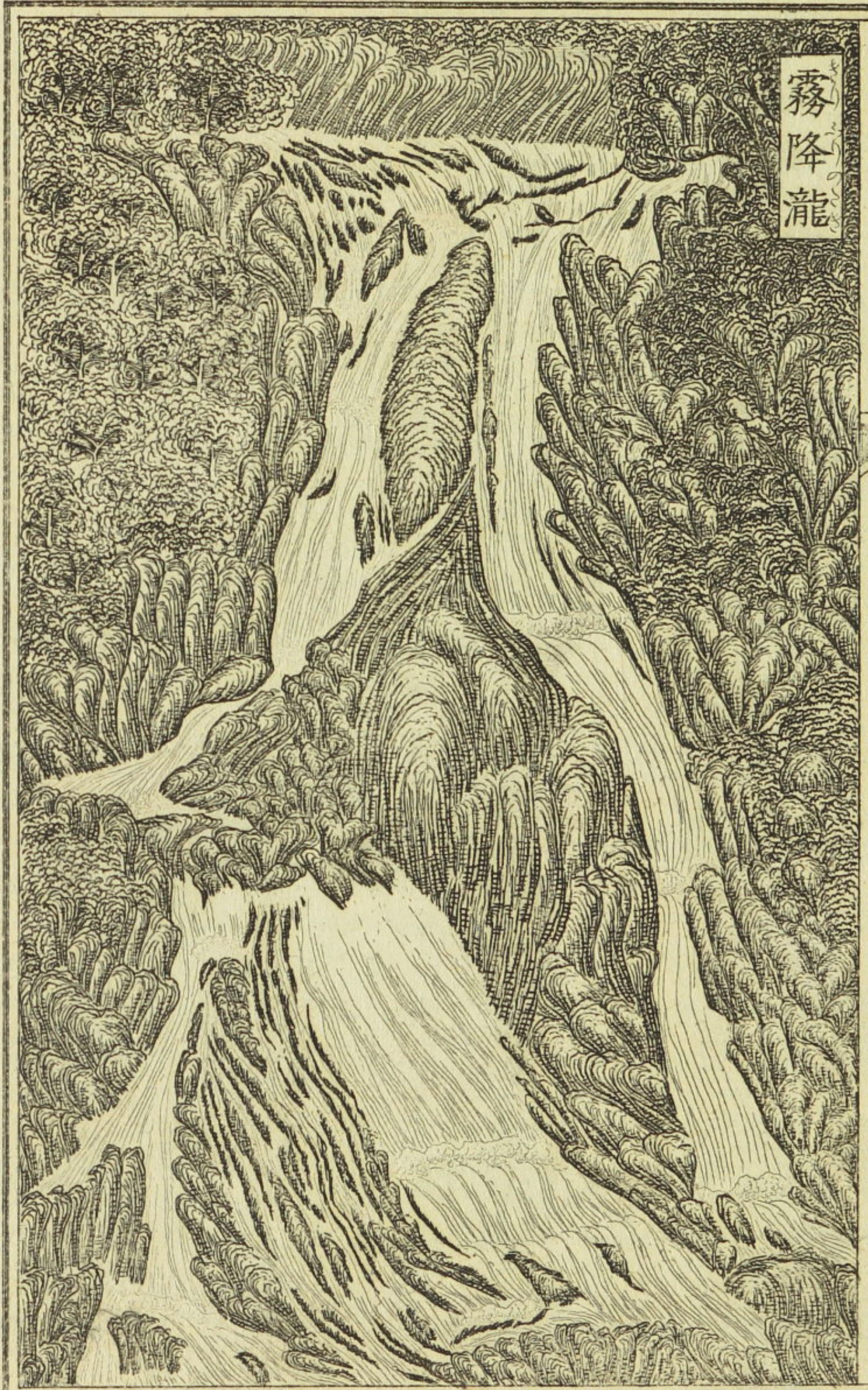
の中より入行者堂有り是
 り東の方小石橋あり筋違橋
 とつ此上流も則ち滝尾の白
 糸滝あり岸上より二丈余飛
 流す俗に是と索麵滝とつよと
 誤まり廻國雜記小滝尾にて
 世くとあつて結ぶちきりの末は
 古の滝の尾のたきのあつてつよ
 瀧の前不動堂あり不動
 と安置す
 別所 瀧尾の入口石階を登



白糸ノ滝

りて右の方より日光責の道具あり日光責とい食物
 を望む者あれば食物と與へ強ひ進む事あり○西の
 方小影向石有り
 瀧尾神社 前小樓門有り銅背赤塗ふて彫物有り○拜
 殿本社同ト構造あり祭神も田心姫神ふして日光三社
 の一あり○本社の前中門の内小禮拜石有り俗小助け
 石とつよ○後小三本杉子種石等有り又泉の御酒池と
 て靈泉有り○下向道と過ぎて飯盛杉老樹ふして枝葉
 下へ無れ遠く望めを飯を盛りたる如く傍小神馬の碑
 有り東照公の愛せし馬と埋む其傍小手掛石あり其左

霧降龍



の方々いかり稻荷川あり向ふむか高きを外山とやまといひ頂上たかみ入い毘
 沙門しゃもんと安置あんちす又氷岩こおりい摺すり旧岩不動石等じゆういしどうせう乃り猶山なほやま深く入
 りて七瀨ななせあり○此方こなた小倉山こくらやまあり此麓このふもとを或あるハ登り或
 ハ下り一里余いちりよと經て霧降きりふり滝乃り高き五六ご十間飛流ひりゅうす
 水休みづやす岩石いし一碎粉いちさいこなして烟霧えんむの如ごとし
 開山堂かいさんどう 滝尾たきおの下向道したむかひみちあり天神社てんじんしゃと過すぎ此こ入い至いたり地蔵ぢざう
 堂どうともつハ六間四方むくまよしかたの赤塗造り内うち地蔵ぢざうと安置あんちを此
 邊へんと佛岩ぶついわといハ傍わらわ一勝道上人しょうどうじゆん并と一徒弟と弟の墓乃り南みなみ入
 産さんの宮乃り妊えん娠しんの女子安産あんさんと祈いのす
 勝道上人しょうどうじゆんと若田氏わかつたし下野國都賀郡しも野のくにつがぐんの人當國このくにの薬師寺やくしじ入

ふて得道一神護慶雲元年四月當山の跋渉と企て、果
さば天應三年遂に宿願を達し當山を開くれたりとい

南谷西谷善女寺谷

何れも神橋より西北に當り七八町

あり是より本町大工町等の町々を過きて田毎澤の橋

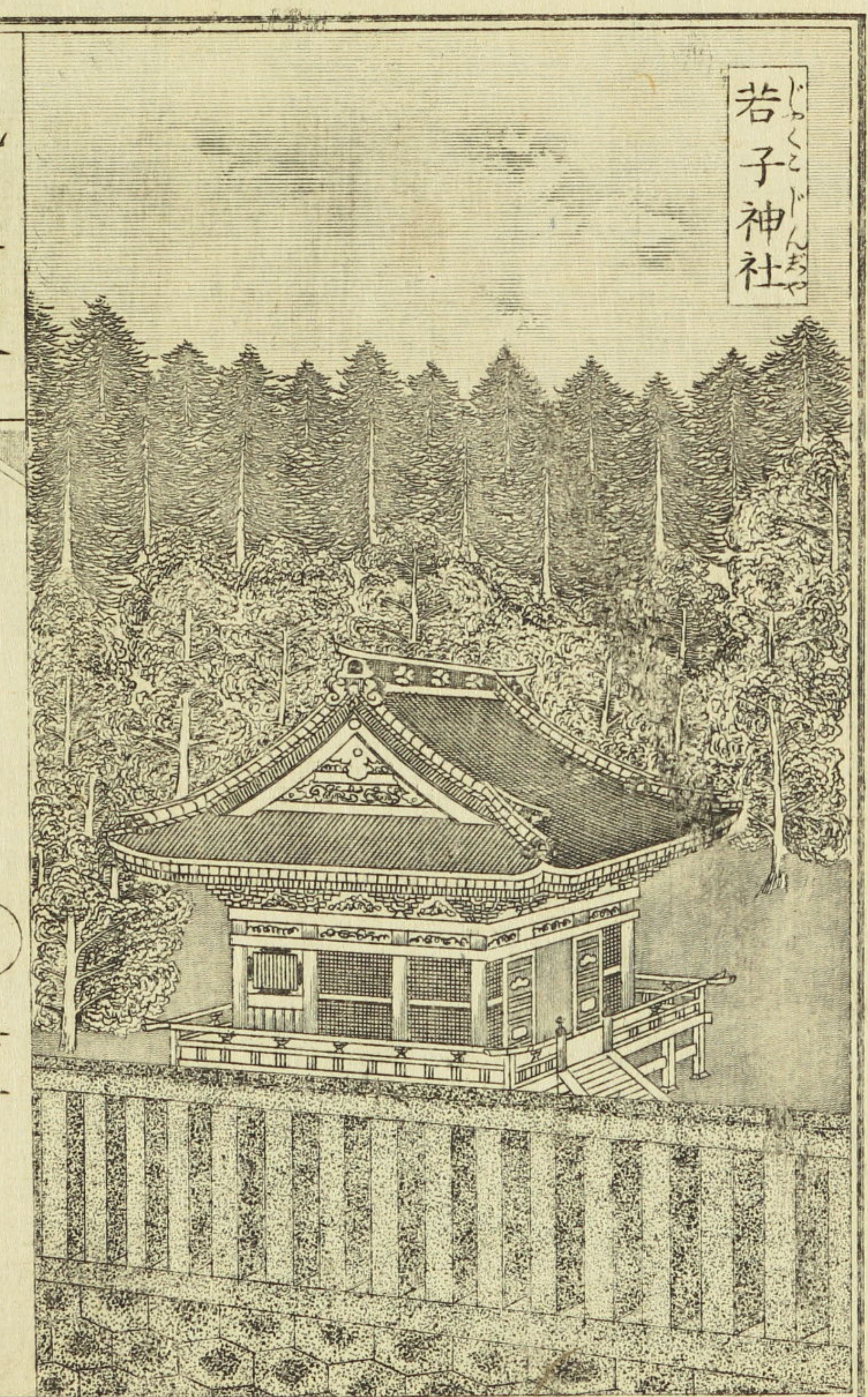
と渡り蓮華石町是より先小大猷公殉死諸士の石碑あ

り走り地蔵堂池石二本杉大杉とありの求聞持堂不動

堂等あり又登りて若子あり

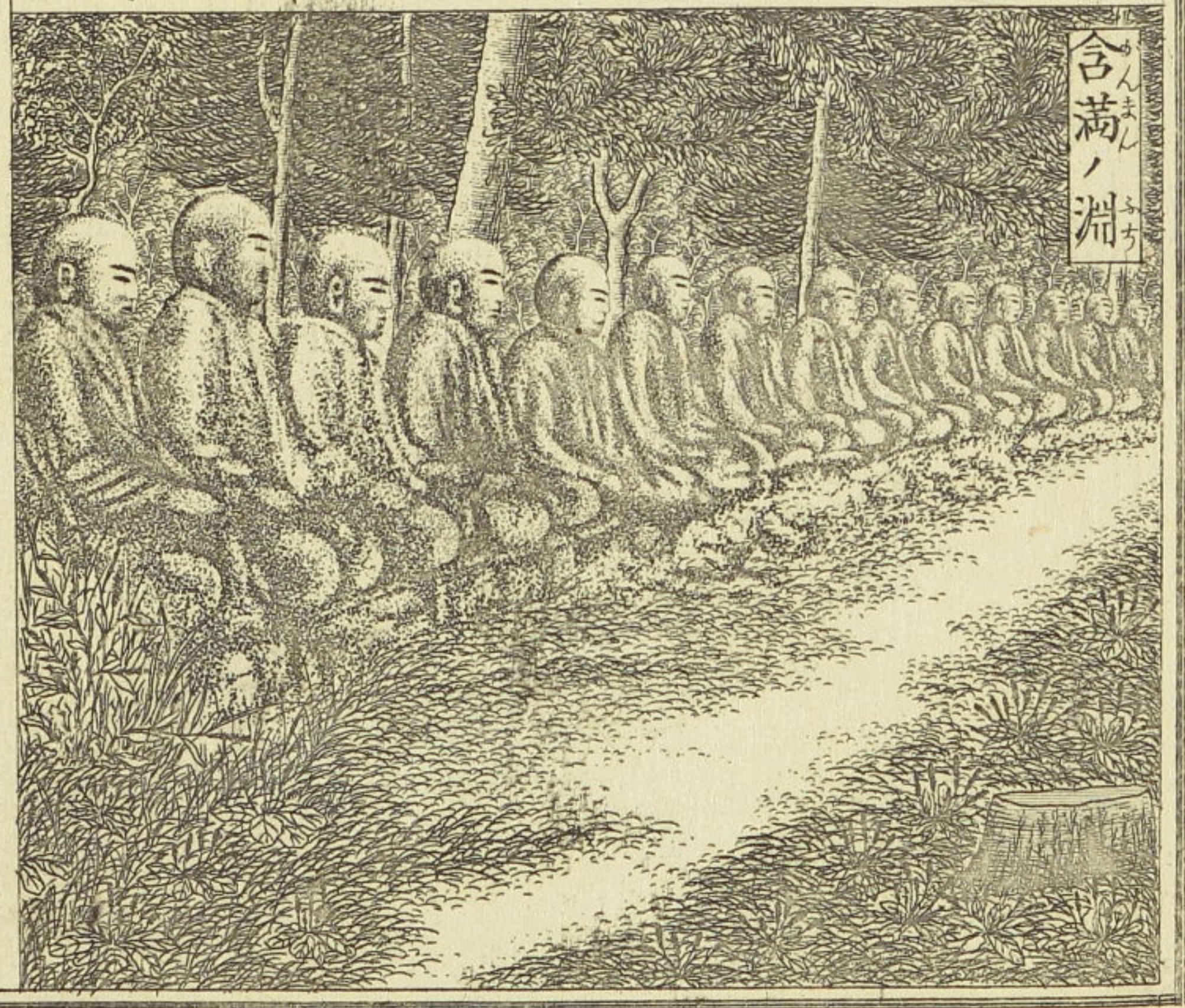
若子神社 祭神下照姫命旧に寂光權現と唱へたり右の
方寂光の瀧あり一名を布引瀧といふ高さ五六丈二

若子神社



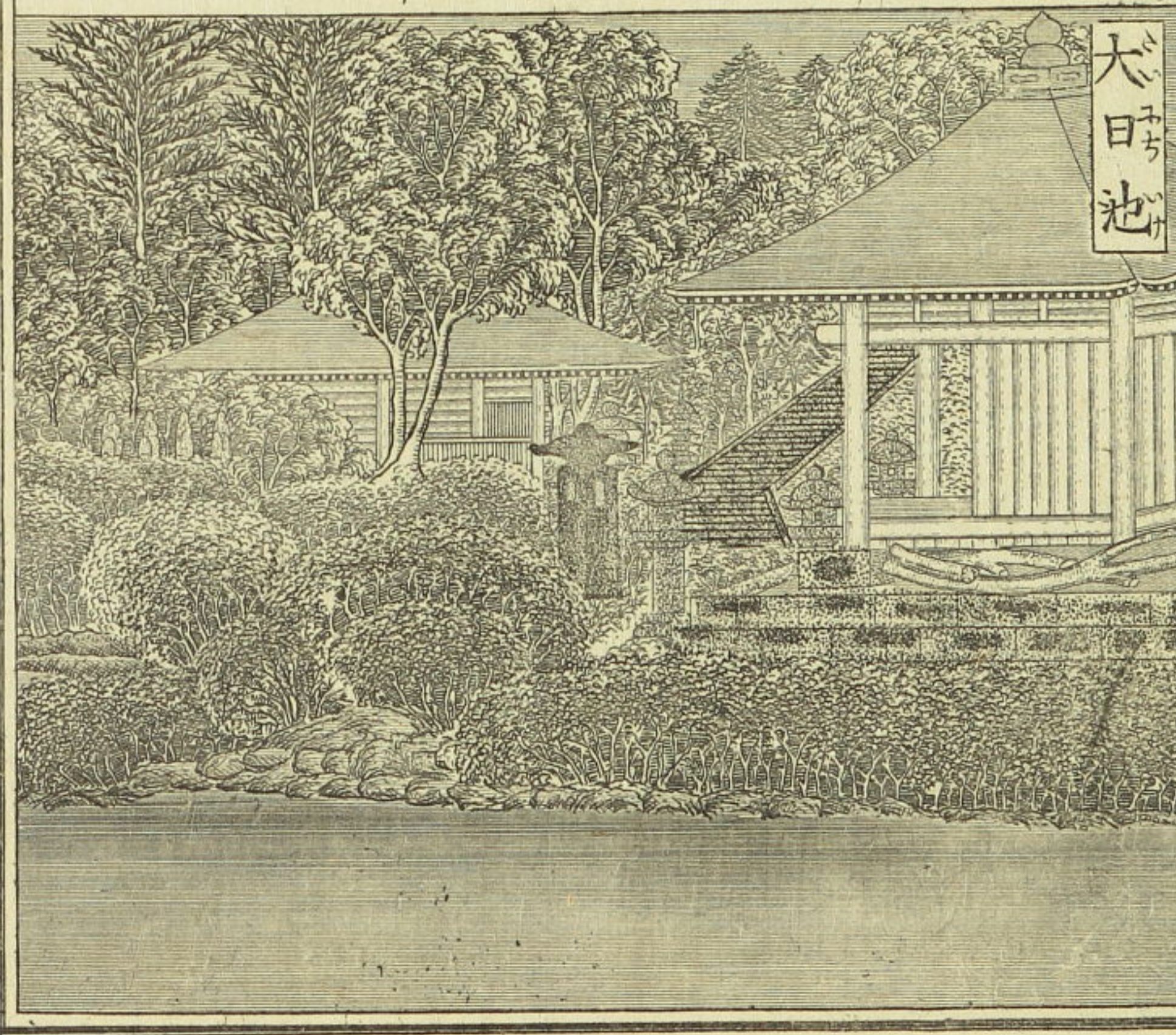
三級小飛流す遙う北寄小羽黒瀧有り遠く望む故定り
 あらゆる水幅五六尺高低知れど一〇此處より飯
 りて又本町大工町を通り林の内小浄光寺有り古の往
 生院より一山の墓所あり是より大谷川の橋を渡り
 向河原と云町有り夫より鳴虫山とつゝ高山の麓を廻
 りて慈雲寺伽羅陀山と號せ堂三間四方此邊を總て含
 満と唱ふ
 含満淵 慈雲寺より西北に當り川向ふに絶壁の如くあ
 り巨巖水涯より峙ち巖上に不動と安置し岩面小含満
 の梵字有り淵の此方小靈庇閣とつゝ護摩壇あり夫よ

り納骨堂此山の奥に索
 麵瀧有り此深谷の索麵
 らび滝尾の滝と索麵滝
 とす俗の誤りあり
 含満淵の傍に數百の石
 地蔵並ひ立たり是より
 二宮山松立山等あり〇
 中宮祠への道筋と蓮花
 石町より阪を登りて華
 花石あり此石ハ勝道上人
 登山の時休息せし所と



つゝ夫より十八王子社
此處より三町程右よ久
二良村あり

大日池 蓮花石を過ぎ二
町程行きて左へ阪路と
下り小堂あり大日と安
置以庭前清潔ふして池
中より冷泉湧出す此處
より右へ廿町許ふして
裏見龍 荒澤滝ともいふ



大日池

水幅五六尺
滝の裏より
見了最も奇
といふ
夫より清瀧
村清瀧あり
五六町程人
里を過ぎて
立木観音曰
時々此處よ

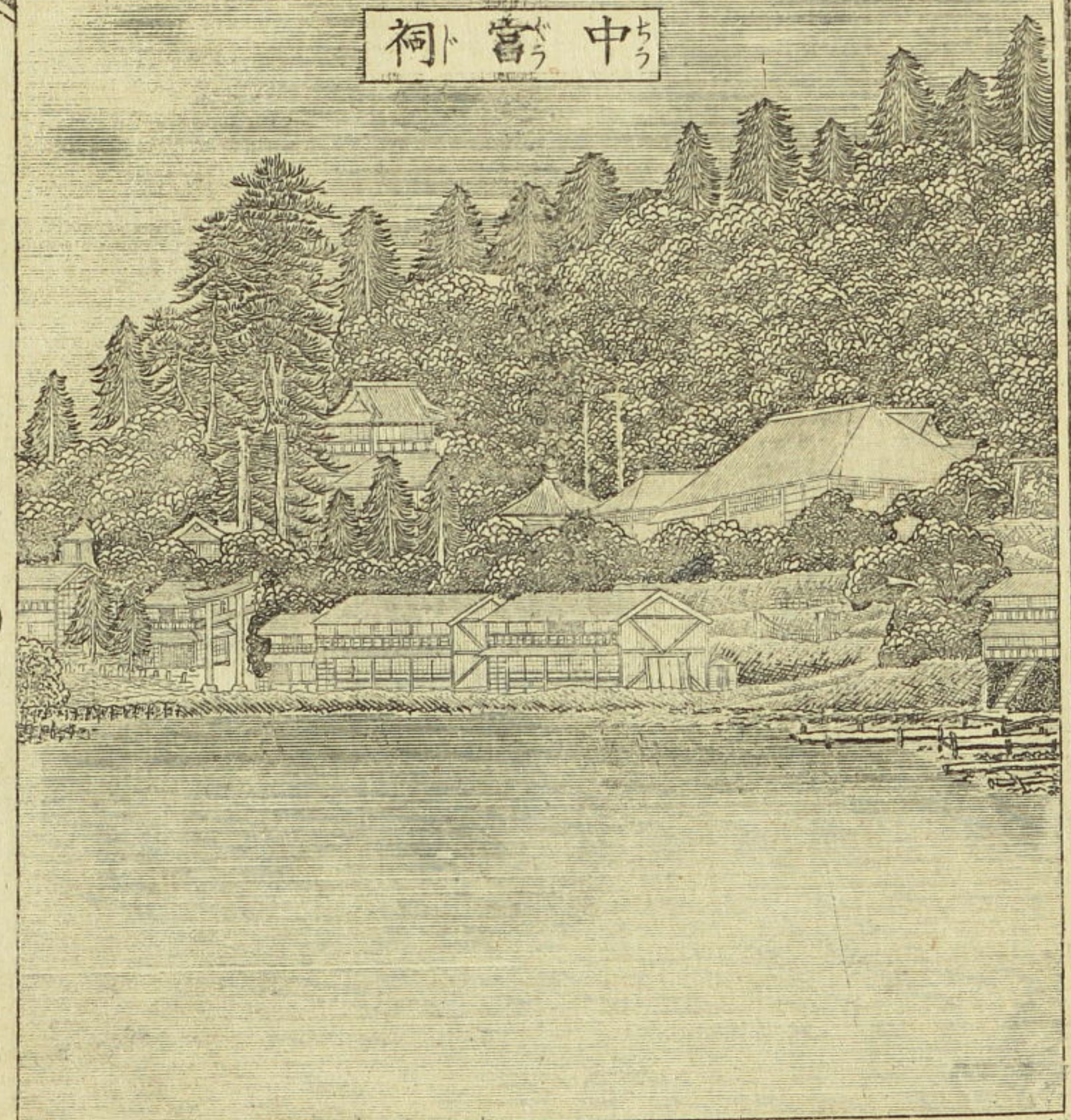


裏見ノ龍

り先女人の往々事と禁せり左に足尾道あり此處より
 右へ三町程行きて水澤村阪を登ること十七八町ふ
 て馬返しといふ河原を過ぎて深澤の茶屋あり是より
 路險々難所あり劍の峯といふ中の茶屋あり夫より
 大平といふ八町程行き神子石あり又少く行きて牛石是
 より一町程經て鳥居あり中宮祠への入口あり此より
 前馬返しより河原路を四五町行き往來の右に前二荒
 の風穴といふ堅一丈横六七尺の洞穴あり其淺深を知ら
 ず又般若の滝方等の滝あり皆萬仞の深溪より落ち來
 る

中宮祠 舊時と
 日光三社権現
 と唱へ補陀落
 山中禪寺と總
 稱す祭神二荒
 神社も同し備
 詳本社も銅青
 總赤塗南向ふ
 して二間より三
 間の大床造り

中宮祠

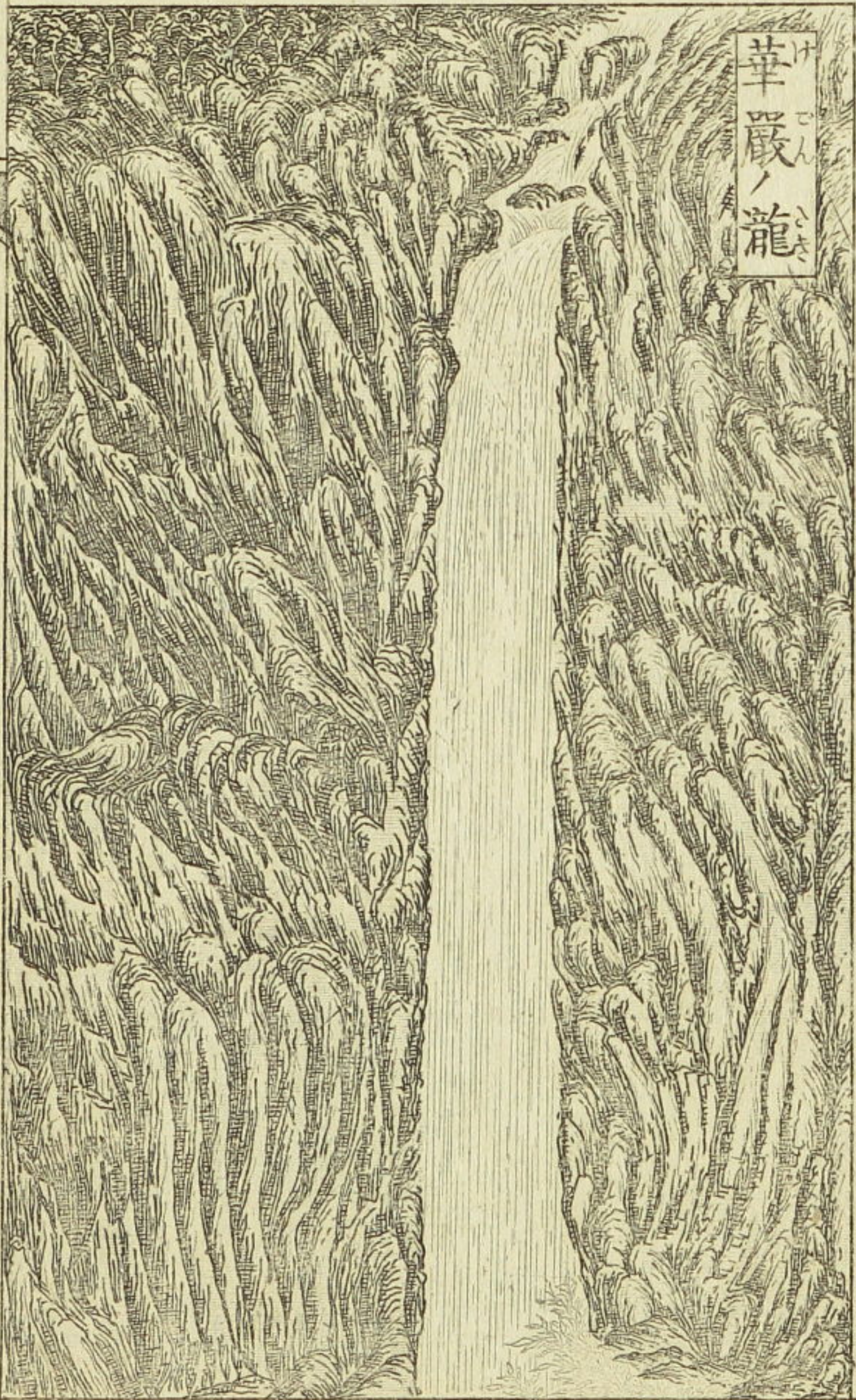


彫物彩色有り傍に社務所賄所薬師堂妙見堂不動堂鐘樓等有り

南湖 旧時と中禪寺湖と云ふ中宮祠の前より東西三里南北一里冷水清潔なりて一點の塵芥なく鱗虫も生ずべと云ふ南岸に歌濱寺が寄西に干手が寄有り湖中の上野島に勝道上人の遺骨を納め塔有り湖水の落口は南岸橋と云ふ長十間許の板橋を架ひ○湖岸に旅店割烹店行小屋等有り黒髪一登山も者ハ此處まで垢離齊戒をせし有り

華巖瀧 南湖の水路幅十間或も七八間とありて七八町

流を瀧口に至り幅迫るる落来る高さ七十五丈有りといふは大谷川の水源あり本道より中宮祠へ詣ずる者ハ大平の道脇を左へ折き平坦の小坦の小路と五六町たどり往



きて茶店ちやだん不ず至つ此處こゝ瀧たきあり其雄壯實ゆうさうじつ不ず關東第一くわんとくいちと
ツベツベ○瀧壺たきか不ず岩燕いそぎとして一種いっしゆの異鳥いずあり其形燕かたち不ず

似にて尾割おしわりけび稍大やあほあり
黒髮山くろけりやま 男体山おんたいざん 二荒山ふたあらい 補陀ふた 洛山らくざん 黒上山くろかみ 日光山にっこうざん ちち号ごう

不ず登山とさんざん口くち不ず唐銅たうどうの鳥居とりいあり七月一日しちがついちにちより同七日どうしちにちまで

參詣さんげいと許ゆるす頂上てうじやうまで直道ちやうどう三里さんり巔たかねの廣ひろさ東西とうざい三町さんちやう南北なんぼく

十町じゆちやう許ゆるり二荒ふたあらい三神さんかみと祀まつり古木こき鬱翠うつそい一いっ殊こと不ず石楠いしかん花はなの

大樹たいじゆあり實じつ不ず神代かみよよりの靈蹟れいせきあり

ふまの黒髮山くろけりやま乃な山やま麓ふもとありきまんくとおもふ

山やま麓ふもとよりふれはなも似にて黒髮山くろけりやまよりくらら雪ゆき

公業

人丸

龍頭りゆうづつ滝たき 湯元ゆげん

への道筋みちすぢ不ず

して湯ゆの瀧たき

下流しもたぎをあり

此邊このへん秋あき日ひ不ず

も紅葉こうよう美みし

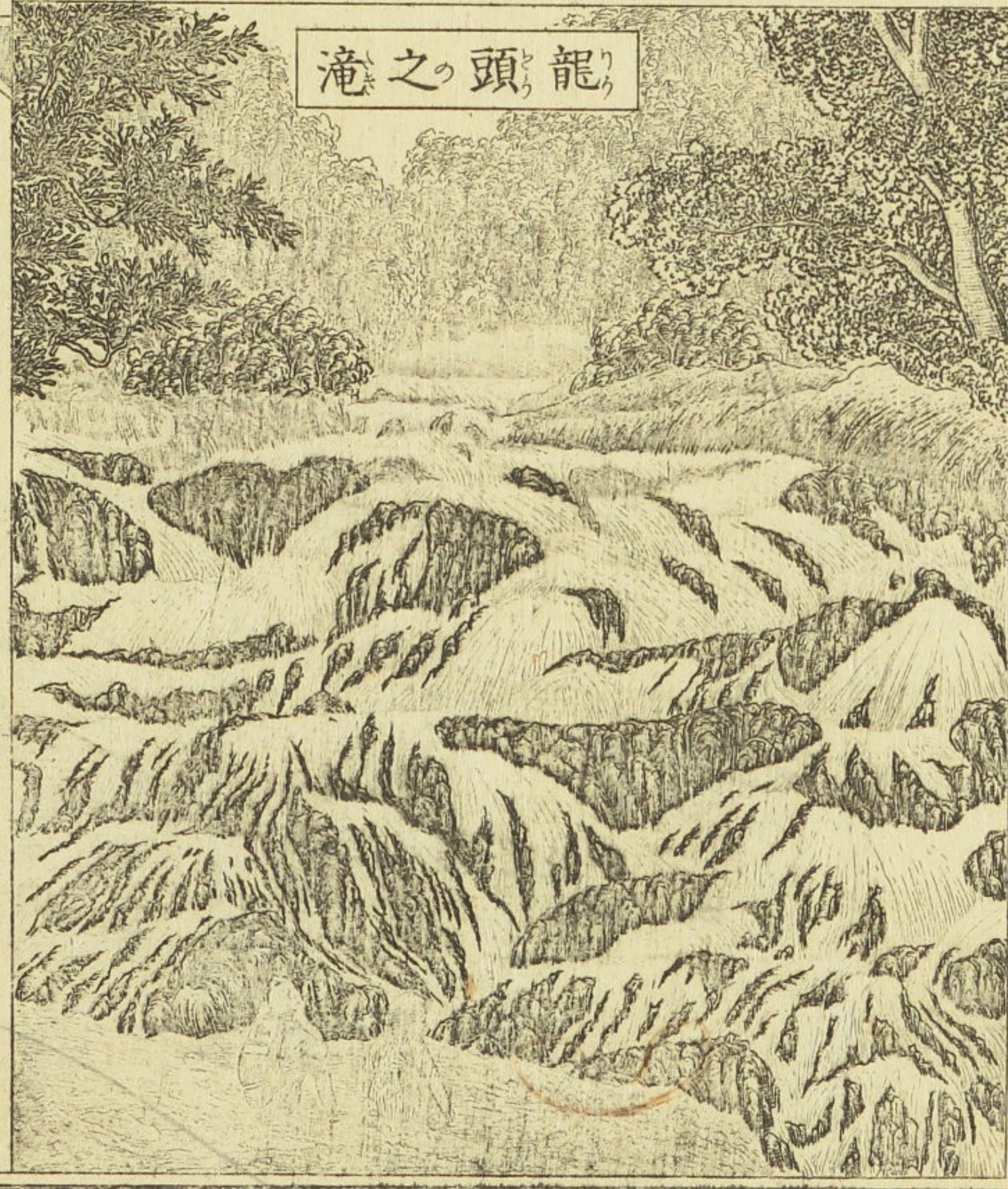
き故むかし紅葉こうよう滝たき

とも唱となみ路みち

傍かたより眺ながむ

了しやう時ときと水勢みづせい

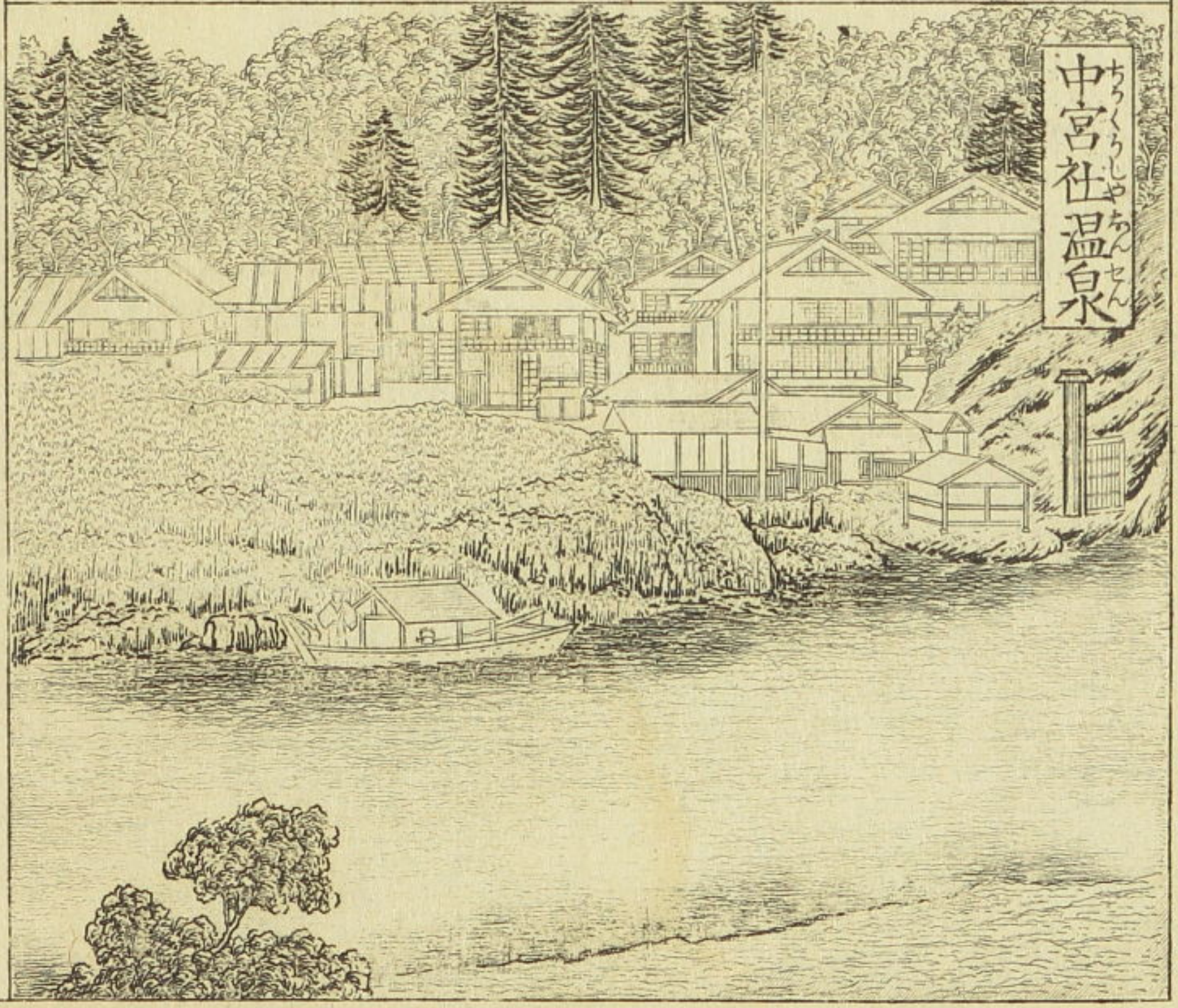
龍之頭りゆうづつ滝たき



龍頭の如く南湖に落ちたるまで數ヶ所は滝有りて頗る
 絶景あり○温泉への道は中宮祠の下より湖水に隨ひ
 一里餘行きて地獄茶屋より木又寺の旧跡を往來橋
 の東山腹にあり四條寺の旧址を鉢山の前にあり又轉
 法輪寺般若寺等の旧跡あり標茅ヶ原戰場原又赤沼原
 原二里四方を經て温泉に到り原より向ふは白根山見
 ゆる

六帖 野の標茅ヶ原はさしも雪のり思ひあふを焼らん
 温泉場 旧時中禪寺温泉と唱へ今中宮祠温泉とい
 ふ此邊を湯の平と稱し八湯有り御所湯滝湯姥湯笹湯

自在湯中湯藥師湯河原
 湯荒湯といふ瘡黄痘を
 除く外ハ諸病不効有り
 旅店割烹店商店等有り
 後山は温泉神社を祀り
 夏秋の間は浴客群集し
 て賑はえり○湯元は湯
 の湖有り廣さ十四五町
 一廿町許り此湖水の落
 つるを湯の瀧といふ最



中宮祠温泉

湯子之滝



も優美の瀑布あり ○湯平より西北に白根山あり前白
 根奥白根といふ此麓を白根澤といふ白根山に魔湖佛
 湖といふ一河り其他野端湖西湖蓼湖狩籠湖鬼怒沼等各
 地に散在す此鬼怒沼は塩谷郡栗山郷の深谷といひて
 絹川の水源あり ○此遠の山々は大真子小真子鉢山帝
 釋岳大王岳雪山三笠赤倉鈴ヶ岳温泉嶽如寶山太郎岳
 月山湯殿山等あり

日光名産概畧

- | | | | | | | | |
|---|----|------|----|----|-----|-----|---|
| 銅 | 蠟石 | 慈悲心鳥 | 駒鳥 | 山鳩 | 岩燕 | 山鴨 | 鱒 |
| 鰐 | 岩魚 | 山椒魚 | 人參 | 黃連 | 白根菜 | 日光蘭 | |

雪割草 苔桃 桤櫻 石楠花 躑躅 熊谷草 駝
 盛草 緋櫻 白檜 沙羅樹 松膚 熊 羚羊 狼
 猪 鹿 猿 貉 狸 岩茸 獅子茸 松茸 椎茸
 栗實 漬蕃椒 湯婆 大谷川茗 烏鹽 平索麵 婿
 菜 春慶塗 指物細工 曲物類 挽物類 膳 椀
 折敷 木鉢 曲桶
 神橋より諸方の路程

- 東照宮へ 七町 ○瀧の尾へ 六町半 ○清瀧へ 一里
- 若子へ 一里 ○裏見滝へ 一里五町 ○新宮へ 十町
- 含満へ 十三町 ○中宮祠 三里 ○霧降滝へ 一里半

鉢石より日本橋まで里程

- 外山へ 廿町 ○氷岩へ 廿町 ○大日池へ 十八町
- 竈岩へ 四里 ○古峯原へ 六里 ○庫申浄土へ 六里半
- 湯殿山へ 三里半 ○湯元へ 六里 ○川俣湯元へ 八里半
- 足尾へ 六里 ○妙義山へ 廿七里 ○太田原へ 十二里半
- 高原峠へ 八里 ○五十里へ 九里半 ○出流へ 十三里
- 今市へ 二里 ○大澤へ 二里十八丁
- 徳次郎へ 二里廿一丁 ○宇都の宮へ 二里六丁
- 崔の宮 一里廿四丁 ○石橋へ 一里廿丁

- 小金井こぎんぎへ 廿八丁 ○羽川うがわへ 一里十八丁
- 小山こやまへ 一里十九丁 ○間々田まざまだへ 一里卅一丁
- 野木のぎへ 廿八丁 ○古河こがへ 一里廿一丁
- 中田なかつたへ 二里三丁 ○栗橋くりはしへ 二里三丁
- 幸手さいてへ 一里十八丁 ○杉戸すぎとへ 一里廿九丁
- 粕壁くすべへ 二里廿一丁 ○越ヶ谷こしがやへ 一里卅三丁
- 草加くさかへ 二里十七丁 ○千住せんじゆへ 二里四丁
- 日本橋迄にほんばし

日光名所圖會 大尾

明治十五年三月廿九日 版權免許
 同年 同月三十一日 出版

編輯人

東京府士族

中澤 祚能

神田區五軒町十四番地

出版人

栃木縣士族

小林 次郎

日光本町二丁目

日光御幸町

神山 德平

上
下

日光神橋前

同 支 店

同上鉢石旅亭

小西喜一郎

同下鉢石同

油屋長三郎

同

釜屋善三郎

同中鉢石同

大野屋重藏

二荒温泉場

山田屋善六

温泉守

松本半左衛門

同

吉見屋善十郎

日光中鉢石旅亭

會津屋喜平

同下鉢石同

紙屋半平

同

和泉屋金平

同

野口屋市三郎

28-797

